

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	ベッドサイド血液粘弾性検査(TEG)とフィブリノゲン値・血小板値の乖離を来す要因の検討
研究責任者	国際医療福祉大学 医学研究科 医学専攻・公衆衛生学専攻 教授 山崎 力
研究実施体制	研究責任施設 聖隷浜松病院麻酔科 共同研究施設 国際医療福祉大学大学院 医学研究科 医学専攻・公衆衛生学
研究期間	承認日以降 ~ 2029年 3月 31日
対象者	聖隷浜松病院で2023年3月から2026年2月までの期間に人工心肺を用いる心臓手術を受けた患者さんの中で、人工心肺前後で血液粘弾性検査(TEG)を評価した成人患者さん(16歳以上)。
研究の意義・目的	血液粘弾性検査(Thromboelastography, TEG)は血小板機能・フィブリノゲン機能・凝固因子機能・ヘパリン残存を評価できる検査です。TEGはベッドサイドで実施でき、臨床検査(血小板値・フィブリノゲン値・ACT値など)では評価できない血餅強度を数値化することで、凝固能評価を補完することができます。当科では主に、心臓手術の中でも人工心肺時間が長い症例、人工心肺中低体温にする症例、術式が複雑である症例、小児症例など、人工心肺離脱後の止血に難渋することが予測される症例でTEGを用い、血液凝固能を最適化するよう努めています。実際に、フィブリノゲン値・血小板値は正常範囲であるにも関わらず、止血できない患者さんについてTEGを行うことで、止血できない原因が判明し、治療ができることがあります。これらを踏まえ、TEGの値がフィブリノゲン値や血小板値よりも止血機能を適切に評価できているかを調査したいと考えております。
研究の方法	【研究デザイン】後ろ向き観察研究 【方法】対象の患者様について、診療録から以下の項目の調査を行います。 主要評価項目:止血処置時間 副次的評価項目: TEG値と血小板値・フィブリノゲン値の相関関係が人工心肺前後で変化するか。 TEG値は人工心肺時間・人工心肺中最低体温・溶血度などにより変化するか。 患者背景因子:年齢、性別、身長、体重、既往歴、術前採血検査 麻酔因子:麻酔方法、麻酔薬の種類・投与量、麻薬の種類・投与量 手術因子:手術時間、出血量、輸液量、輸血量、尿量 人工心肺因子:人工心肺時間、人工心肺中最低体温、吸引脱血圧、送血圧
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部

	に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 麻酔科 日比野 世光 TEL:053-474-2222(代表) 9:00~17:00 平日